

こども支援アセスメント通信 vol.6

昨年度、当通信では「個別支援計画プロセスとアセスメント」について情報をお届けしてきました。今年度は、これまでに地域の支援者の皆さんから学びたいという声が多かった「コミュニケーション技術」と「具体的事例のアセスメント」をテーマに、情報をお伝えしていきます。

コミュニケーション スキルアップ★COM

「コミュニケーションスキルを見直してみよう」

お子さんに対する支援では、本人・保護者・支援者のそれぞれの思いや情報を聞きとり、アセスメント結果や支援の方向性を伝え、共有するといったプロセスが常に求められます。このプロセスを円滑かつ効果的に進めていくためには、支援者のコミュニケーションスキルがとても重要になります。

皆、同じように悩んでいます

市町村の保健師さんや事業所の職員の皆さんにお子さんの支援上の悩みを聞くと、「親との関係構築が難しい」「相手にうまく伝えられない」「支援者間の情報共有が難しい」といった内容が多く聞かれます。これらの悩みの要因は個々のケースの事情によって異なりますが、どれも支援者の「聞く」「伝える」といったコミュニケーションスキルが大きく関係しているといえます。

	お子さんの支援で難しいと感じること	コミュニケーション COM基本スキル	場面
対保護者	<ul style="list-style-type: none"> 親との信頼関係があまり出来ていない場合、どこまで深く話を聞いてよいものかと遠慮してしまう。 親の本音が分からず、なかなか信頼関係が深まらない。 家と事業所で子どもの様子が違う場合の親への伝え方が難しい。 親があまり問題に感じていなかったり、障害の受容が難しかったりする場合に、親との支援方針の共有が難しい。 	<p>【コミュニケーションの基本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶整える <ul style="list-style-type: none"> ・心理的態勢（意識、注意、関心、意志） ・物理的態勢（距離、向き、位置） ・身体的態勢（心身の機能、構造、体調） ▶まなざす ▶共にある ▶待つ ▶知る（聴く、観る、集める、問う、読む） ▶伝える（声、身体、物） ▶話す <p>「治療・援助における二つのコミュニケーション」(山根寛/白岩圭悟 著)より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面接（アセスメント、サービス開始、モニタリング） ・送迎時等の会話 ・個別支援計画書 ・連絡帳 等
支援者間	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で「よい」とするもの等の価値観にズレがある。 職員によって、同じようでも微妙に子どもの見方が違う。 子どもへの伝え方等、具体的な支援方法が支援者間で統一できていない。 職員間（支援者間）で支援の考えを共有したいが、それぞれ忙しいのでなかなか言い出せない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・会議（ケース会議、モニタリング会議、職員会議） ・ケース支援記録 ・スタッフミーティング 等

自分のスキルを見直してみよう

支援者が自身のコミュニケーションスキルを支援の道具の一つとして効果的に活用できることで、円滑なサービスの提供やその質の向上につながります。そのために、コミュニケーションスキルを学び、自分のコミュニケーションについて見直してみることが大切です。

そこで次回から、ケース支援記録や連絡帳等の記録、保護者との面接といった身近な業務を例に、支援者が知っておくと役立つコミュニケーションスキルについてお伝えしていきたいと思えます。

気になるこどもの アセスメントミニ講座

すぐに姿勢が崩れるのは、
やっぱり腹筋が弱いから？



今回のテーマ **「姿勢」**

- 「椅子に座っていても、すぐに机に突っ伏してしまう」
- 「活動の間ずっと座ってられず、立ち歩き、床で寝転んでいる」
- 「いつもどこかに寄りかかっている」

姿勢の崩れが気になるお子さんの相談で「腹筋や体幹筋を鍛える訓練方法を教えてほしい」という質問が多くあります。姿勢の崩れと筋力の低下を結びつけて考えがちですが、もしかしたら筋力低下ではなく筋緊張低下が要因かもしれないし、もっと別な要因があるのかもしれない。

支援方法を考えるためには、そのお子さんの姿勢が崩れる要因について、最初に具体的な場面観察や聞き取りによって情報収集することが不可欠です。姿勢が崩れたきっかけは何か、椅子と机は本人の体に合っているか、座ってられる時間はどれくらいか。「姿勢の崩れ」と言っても、要因は一人一人全く違います。

次に、情報収集で把握した要因から、支援方法の仮説を立て検証します。身体を使った遊び、椅子や活動等の環境の工夫により、お子さんに見られた反応・変化を確認します。仮説と検証を繰り返し、お子さんに合う方法を見つける過程そのものが「個別性のある支援」ではないでしょうか。

確認してみよう！観察の視点（姿勢編）

皆で場면을観察して、「気づき」を共有しましょう。



どこで困っているのかな。
どこまでできるのかな。
どんな支援が必要かな。

★機能面

【筋力】

筋を収縮させた結果、発揮される力。
筋力トレーニング⇒拮抗運動を繰り返し、筋の繊維を
太く強く増強すること。

★筋力低下⇒力が弱くなった状態。
疾患、体重低下、筋肉量減少に伴うもの。
筋緊張異常によるもの。等

【筋緊張】

姿勢、運動を保つために脳で無意識に調整している
筋肉の張り。姿勢に合わせて筋の張りを調整する。
↓張り調整がうまくできない状態

★低緊張⇒筋の張りが緩く、張りを保てない状態。
★過緊張⇒動かされた時、筋に抵抗感がある状態。
(脳性麻痺等の中枢性障害での痙性、固縮等)

【感覚・認知】

感覚入力によって運動の調整を行い、姿勢を保つ。
★視覚…空間での自分の体の位置情報を捉える。
★前庭感覚…揺れ、傾き、スピード、回転の感覚。
★固有受容覚…位置、動き、力、圧の感覚。

※感覚統合

複数の感覚を整理し、まとめる脳の機能。

★ボディイメージ

⇒自分の身体部位の位置や、軸の傾きなどを無意識
に把握する力。自分のイメージどおりに身体を動
かせるかどうかが大事。

【注意力・衝動性】

・集中力、衝動性、感情等のコントロール。
・視覚や聴覚の刺激での注意が移りやすさ。

★環境面

【物的環境】

・机、椅子の高さや幅は身体に合っているか。
足底が床面についているか。
お尻が椅子の奥まで入っているか。
・話す人(先生)と本人の位置関係。
・家、学校、事業所などの場所による違い。
・視覚的、聴覚的な環境(刺激の量)。

【人的環境】

・集団、個別、対応者によって違いが見られるか。

【活動内容】

・姿勢が崩れやすい or 崩れにくい時の活動。
・姿勢が崩れる本人なりの理由の有無。
例)書くときに目を近づけないと見えにくい。
体ごと向きを変えないと話を聞けない。
座っているとうまく力が入らない。

★こんなところも確認したい

・活動する内容を理解しているか。
・今は座る時間であるという意識があるか。
・姿勢の崩れによる本人のメリットがあるか。
例)悪い姿勢だと先生が声をかけてくれる。
・本人の「できること」「していること」「できるけどしていないこと」は何か。
例)座れるけど座らない。
好きな活動だと〇分間座れる。等

これまでの通信は当所ホームページに掲載されています。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-hohuku/reha-reco-kodomo-assesment.html>
(「仙台 リハレコ」で検索) QRコードはこちら⇒



[発行・問い合わせ先]
宮城県仙台保健福祉事務所健康づくり支援班
〒985-0003 宮城県塩竈市北浜4丁目8-15
TEL/FAX: 022-363-5503 / 022-362-6161
メール sdhwhfzke@pref.miyagi.lg.jp